

お見事 砂の熊本城

鹿児島イベント 崇城大生が出展



学生らが制作した熊本城の砂像＝鹿児島県南さつま市（崇城大提供）

崇城大（熊本市西区）の芸術学部彫刻コースの学生ら4人が、鹿児島県南さつま市で開かれている「吹上浜砂の祭典」に熊本城の砂像を出展している。4人は「熊本城は県民のシンボル。復興に向けて頑張っている県民の姿をアピールしたい」と話している。31日まで。

祭典は、同市などが毎年実施。同学部の楠元香代子教授（63）が過去に砂像コンテストの審査員を務めていたことなどから、熊本城の制作を依頼した。

4人は2年の奥森日向子さん（19）と大学院1年の山下智愛さん（22）、同2年の安森大樹さん（23）、卒業生で彫刻家として活動している東耕平さん（33）＝いずれも熊本市＝で、4月21日に作業をスタート。ピラミッド状の木枠の中に積んだ砂の固まりを上部から削っていき、6日かけて石垣の上に建つ約3分の天

守閣を完成させた。

楠元教授は「砂像を手掛けた経験はないので悩んだが、学生らが意欲的だったのでやるしかないと思った」と振り返る。

ゴールデンウィーク期間中、会場には多くの観光客が訪れたという。「鹿児島の子もたちが喜んでくれるのがうれしかった。熊本城や熊本地震のことを知るきっかけになれば」と山下さん。東さんは「ぜひ熊本の人たちにも見てほしい。機会があれば、来年もまた挑戦したい」と話している。（中島崇博）



熊本城の砂像を制作した崇城大の学生ら4人と楠元香代子教授（中央）＝熊本市西区